

2014年10月24日

第672回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 越智 仁 三菱レイヨン株式会社 代表取締役社長）
では、本日11時より第672回 本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

1. 第2回先端繊維素材 Web 展・シンポジウムの開催速報

第2回先端繊維素材シンポジウムの開催結果と、先端繊維素材展示会（Web展）の開催状況について報告があった。

- ・先端繊維素材シンポジウム（第2回）を、10月1日（水）9:20～16:00、東京ファッションタウン（TFT）西館・ホール1000（東京・有明）で開催した。宇宙飛行士・山崎直子さんによる基調講演をはじめ、先端繊維素材に関する国内外の動向、「安全・安心」をテーマとした講演や、パネルディスカッションなどの内容で開催した。来場者数は、第1回（約600名（2013年2月））を大きく上回る約700名で、盛況なシンポジウムとなった。繊維学会の国際シンポジウム（ISF2014）と同じ時期に開催することにより、海外からも多くの参加があった。
- ・シンポジウム開催に合わせて、9月28日（日）～10月1日（水）の4日間、TFT西館・ホワイエで、先端繊維素材展示会（実展示会）を開催した。特に、最終日（10/1）は、異業種の方々との名刺交換会の会場として賑わった。
- ・Web展（第2回）は、8月28日（木）にスタートし、10月27日（月）まで開催中。先端繊維の内外ユーザーとのコミュニケーションの場と位置付けて、ユーザー産業の技術・開発系の方々を中心に各社の素材・商品をアピールしている。欧米を中心に海外からも多くのアクセスがあり、また、今回の目玉企画である、サイエンスシアター（代表的な先端繊維素材の実験動画）は、広く好評をいただいている。

（Web展のアドレス：<http://webexpo.jcfa.gr.jp/index.html>）

2. 標準化推進 WG の設置について

化繊協会では、中期計画において「情報発信」「連携推進」と共に「標準化推進」を重点事業の一つに位置付けており、高性能・高機能化学繊維の標準化事業の推進に加え、今年5月に経済産業省が策定した『標準化官民戦略』への対応組織として、新たに標準化推進WGを設置した。

①標準化推進WGの活動

化繊協会における標準化事業の推進と、経済産業省「標準化官民戦略会議」への対応組織として、8月末に標準化推進WGを設置した（11社により構成）。

活動計画としては、初めに標準化の活用事例、効率的な進め方、標準化ニーズの調査方法、標準化活動における課題などの情報収集を行った上で、化繊業界として推進すべき標準化テーマやロードマップを検討し、中長期的な標準化活動計画を策定する予定。

②経済産業省「標準化官民戦略会議」

2014年3月および5月に、茂木経産大臣（当時）の主導で「標準化官民戦略会議」が開催され、官民が連携して取り組むべき標準化戦略として『標準化官民戦略』が策定された。同会議には日覚化繊協会長（当時）が出席した。

経済産業省では、5月に策定された『標準化官民戦略』の具体的実施に向けたフォローアップの取組みを進めており、化繊協会としてもこのフォローアップへの協力対応を行っている。

3. エコプロダクツ展 2014 への化繊協会コーナー出展について

12月11日（木）～13日（土）の3日間、東京ビッグサイトで国内最大規模の環境展「エコプロダクツ 2014」（主催：（一社）産業環境管理協会、日本経済新聞社）が開催される。

化繊協会では、「未来をかえる化学せんいのチカラ」のテーマで出展することとし、帝人、東レ、クラレ、東洋紡、旭化成、ユニチカ、三菱レイヨン、ダイワボウ、オーミケンシの9社で出展準備を進めている（東展示場2ホール／小間番号2-035）。同展示会への出展は2004年から続けており、今回で11回目となる。

快適機能性繊維（吸湿発熱、蓄熱保温、接触冷感など）や高性能繊維（炭素繊維、アラミド繊維など）を中心に教室形式（実験や体感）で紹介するほか、今回展示の特長として、①代表的な先端繊維素材の実験動画（サイエンスシアター）の映写、②学習まんが「大研究！化学せんいのチカラ」を常備した読書スペースの設置、③

展示内容についてのクイズを予定している。この他、エコプロダクツ展会場内「プレゼンテーションステージ」にて、④「未来をかえる化学せんいのチカラ（仮題）」と題する講演を行い、環境問題に関心の高い方々に向けて情報発信することとしている。

4. 第 20 回中国国際化繊産業会議の概況報告

9月3日（水）から4日（木）の2日間、中国の浙江省・粛山にて、第20回中国国際化繊会議が開催され、その概要について報告があった。

中国国際化学繊会議は中国で開催される化学繊の国際会議であり、1985年の第1回北京国際化繊会議（第9回より中国国際化繊会議に名称変更された）から数えて20回目の開催となる。

今回は、中国化繊工業協会・端会長のキーノートスピーチ等のほか、日本、欧州、米国、インド、韓国、台湾、タイ等の代表者によるパネルディスカッション、3つの特別セッション、4つの分科会等が開催された。中国からは中国化繊工業協会・端会長、中国紡織工業連合会・高副会長、許名誉会長、中国国内の大手化合繊メーカーの代表など約600名が参加した。

今回の会議テーマは「イノベーションと産業チェーンの協力が中国化繊産業の持続的発展のキーワード」であり、初日のキーノートスピーチにおいて、端会長からは、第十三次五か年計画の策定を控えた中国の化繊産業の発展に関する課題について、今後、中国の化繊産業が低成長時代に突入する中で、化繊業界のアップグレード、環境対応、高機能繊への注力、高性能繊の発展、用途開拓の重要性についての報告があった。日本からは、上田副会長がパネルディスカッションに参加した。

5. 第 53 回ドルンビルン国際会議の概況報告

9月10日（水）から13日（土）の3日間、オーストリアのドルンビルンにおいて、第53回ドルンビルン国際化繊会議（主催：オーストリア化繊協会）が開催され、その概要について報告があった。

本会議は、①欧州繊産業の研究開発に関わる産学交流、②川上（素材）～川中（テキスタイル）～川下（最終製品）の情報交流の場として、1962年以降、毎年ドルンビルンで開催されている。

今回は、ドイツ、オーストリア、スイスなど約630名が参加し、日本からも13名が参加した。

今年度は、変化に対応したグローバル戦略、ファイバーイノベーション、自動車、不織布/フィルター、キーテクノロジーというテーマで 109 件の報告があった。そのうち、日本からは帝人、東レ、旭化成、東洋紡から計 5 件の発表があった。

<本件についての問い合わせ先>

担当：日本化学繊維協会 技術グループ 竹内・川名（03-3241-2312）

以上